

# 1 人生各期にわたる教育目標

乳幼児期 (0歳～5・6歳)	児童期 (6・7歳～11・12歳)	青年期	
		前期 (12・13歳～14・15歳)	後期 (15・16歳～22・23歳)
	1 郷土の自然や文化に親しみ、		
2 動植物を愛し、自然に親しむ豊かな心を養う。	P25～27	3 自然を敬い感謝の気持ち	
	4 いろいろな運動を楽しみ、体力を身につける。	5 スポーツを通して心身を鍛え、自らの健康管理ができる。	P29～30
7 健康・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける。	P28～29	8 交通安全のための習慣を身につける。	P34
			P31～34
12 日常生活の中で社会的に望ましい習慣や態度を身につける。	13 社会の一員としての自覚をもち、社会的態度を身につける。	14 個人または団体の利害だけにとらわれ	
P38～39	P39～40	15 社会の一員としての役割を自覚	

1. 人生各期にわたる教育目標

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)	
その保護・発展に努める。		P22～25
ちを育てる宗教心を養う。		P27～28
6	スポーツ、レクリエーションに親しみ、健康の増進に努める。	11 健康・安全と体力の保持に努める。 P37～38
9	健康・安全な生活環境づくりに努める。	P30～31
10	子供の健康・安全な生活態度を育てる。	P35～36
		P36～37
全体との調和を図っていくことができる。		
		P40～42
し、責任ある言動をとる。		
16		P42～44
地域の集団活動に積極的に参加し、自らの役割を果たす。		
17		P44～45
時間を大切にし、時刻を守る。		
		P46

教育目標  
内容の柱

郷土の自然や文化の愛護

健康  
安全の  
保持  
増進

社会  
連帯感  
の  
育成

I. 足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
	18 友達と互いに協 力し合うことが できる。 P 46～47	19 相手の立場や気持ちを理解し、温かい 心で人に接することができる。	
	24 道 徳 的 な 態 度 を 身 に つ け ， 実 践	20 友情の尊さを理解し、友達との交際の 仕方を身につける。 P 47～48	P 48～49
23 日常生活の中で 善悪の区別がつけ られる。 P 50～51			
26 友達のだれとで も、積極的に仲よ く遊べる態度を身 につける。 P 54～55	27 よりよい仲間づ くりをするために、 不合理な差別や偏 見をもたないで生 活することができる。 P 55～56	28 同和問題を正しく理解し、不合理な差 別や偏見のない民主的な人間関係をつく ることに努める。 P 56～57	
	30 奉仕活動の大切さを理解し、積極的にその活動に参加する。 P 58～60		
	32 敬老の精神を身につけ実践する。 P 61～62		

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)	
21 自分と異なる信条・宗教・主張などを理解し、広い心で接することができる。 P 49		22 若い世代の人たちの立場や気持ちを理解し、温かい心で人に接することができる。 P 49～50
することができ P 51～53		
25 子供に日常生活の中で善悪の区別がつけられるようにする。 P 54		
29 同和問題を正しく理解し、不合理な差別や偏見のない社会の実現に努める。 P 57～58		
31 奉仕を通して生きがいがある。 P 60～61		
33 子供に敬老の精神を育てる。 P 62		

内教育  
内容の  
柱標

社  
会  
連  
帯  
感  
の  
育  
成

よ  
き  
家  
庭  
人  
の  
育  
成

I. 足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
	<p>34</p> <p>男女の特性や家族の役割を理解し、よりよい家庭を築く生活態度を身につける。</p> <p>P 62～63</p>	<p>35</p> <p>男女の特性を理解し、清純で明朗な交際の仕方を身につける。</p> <p>P 63～64</p>	<p>36</p> <p>結婚の意義を理解し、健全な家庭生活を営む態度を身につける。</p> <p>P 64～65</p>
	<p>39</p> <p>家庭で行う行事に積極的に参加する。</p>	<p>38</p> <p>家族が互いに尊重</p>	
<p>41</p> <p>人格の基本となる望ましい性格を身につける。</p> <p>P 69～71</p>			<p>P 67～68</p>
			<p>43</p> <p>職業人として</p>
			<p>44</p> <p>職業人としての</p>

壮年期		高齢期 (60歳以上)
前期 (23・24歳～42・43歳)	後期 (43・44歳～59歳)	
<p>37</p> <p>性について正しい理解をもち、家庭において指導することができる。</p> <p>P65～66</p>		<p>よき家庭人の育成</p>
<p>し合い、明るい家庭生活ができる。</p> <p>P66～67</p>		
<p>40</p> <p>よい家風を受け継ぎ、さらに新しい家風をつくりあげていくことができる。</p> <p>P68～69</p>		
<p>42</p> <p>子供の人格の基本となる望ましい性格を育てる。</p> <p>P71～72</p>		<p>よき職業人の育成</p>
<p>の自己研修にたえず努める。</p> <p>P72～73</p>		
<p>専門的スキルや資格を身につける。</p> <p>P74～75</p>		

I. 足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
			45 職業を通
	46 勤 勞 の 尊 さ を 理 解 し 実 践 す る 。		
		47 正しい職業観に立ち、自分に合った職業を選択するための能力を身につける。	P 77～79
			P 79～80
		50 資 源 の 開 発 と 活 用 を 図	
51 身近な事物現象に興味関心をもつ。 P 82～83	52 基礎的な知識や技能を習得し、自ら学びとる態度を身につける。		P 83～86
53 基本的な生活行動を自分の力で進んで行う態度を身につける。 P 86～87	54 基本的な生活習慣を身につけ、自ら考え正しく判断し行動することができる。 P 87～88	55 日常生活の諸問題に主体的に取り組み自ら解決していく態度を身につける。 P 88～89	
	58 自己をみつめ、望ましい生活をしようとする態度を身につける。 P 90～92		60 将 来 を 見
	59 困難にくじけずねばり強くやりとげる態度を身につける。 P 92～93		

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)	教育目標 内容の柱
前 期 (23・24歳～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)		
	<p>して生きがいがある。</p> <p>P75～77</p>	<p>49</p> <p>再就職では、身につけた知識や技能を生かすことができる。</p> <p>P81～82</p>	よき職業人の育成
48	<p>自分の仕事について家族に理解させる。</p> <p>P80～81</p>		
	<p>り、産業の発展に努める。</p> <p>P82</p>		
56	<p>社会の変化に対応できるため、つねに学習し創意工夫に努める。</p> <p>P89</p>	<p>57</p> <p>高齢者としての経験を積極的に生かすことができる。</p> <p>P89～90</p>	主体的な生活態度の育成
	<p>通して計画的な生活をする。</p> <p>P93～94</p>		



I. 足利市の教育目標

乳 幼 児 期 (0歳～5・6歳)	児 童 期 (6・7歳～11・12歳)	青 年 期	
		前 期 (12・13歳～14・15歳)	後 期 (15・16歳～22・23歳)
61	ものを大切にし、資源を有効に活用す		
	62	自由時間を有効に過ごす。	
			P97～98
	64	身のまわりの情報を整理し、活用する能力を身につける。	
			P99～101
	67	日本及び世界の国々に対する関心と理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚を高める。	
			P103～105

壮 年 期		高 齢 期 (60歳以上)
前 期 (23・24～42・43歳)	後 期 (43・44歳～59歳)	
<p>ることができる。</p>		P 94～97
<p>63 進んで計画的に自由時間を活用する。</p>		P 98～99
<p>65 情報を適切にとらえ、自ら正しく判断し、活用することができる。</p>	P 101～102	<p>66 高齢者としての役割を認識し、情報を若い世代に伝えることができる。</p> <p>P 102～103</p>
<p>68 我が国に対する愛情を深めるとともに世界的視野に立って広く考えることができる。</p>	P 105～106	<p>70 国際感覚の上立って、世界の老人の生き方を学ぶことができる。</p> <p>P 107</p>
<p>69 国際社会における郷土の産業の果たす役割を正しく理解できる。</p>	P 106～107	

教育目標  
内容の柱

主体的な生活態度の育成

国際社会に生きる日本人としての自覚

※ 凡例

番号…教育目標番号

教 育 目 標
---------

P ○～○

教育目標、達成目標、具体策、  
目標達成の場とのかかわり掲載ページ